

長らくの間、クラブを牽引してくれたアルナシームが 2025 年 11 月 21 日付けで競走馬登録を抹消し、引退となりました。

どんなときも温かいご声援を送ってくださった会員様とファンの皆様、いつも温かく接してくださった橋口慎介調教師、担当の五十嵐助手をはじめ、橋口厩舎の皆様、温かく見守りながら取材いただいた報道関係者の皆様、そして騎乗してくださった騎手の皆様、生を受けた日からここまでアルナシームに関わってくださったすべての関係者の皆様、本当にありがとうございました。

初めて彼を見たのは 2020 年の 6 月のことです。当時はコロナ禍であり、開催が決まったセレクトセールの下見が初対面でした（余談ですが、下見の際、馬の顔は見ないようにしています。見るとどの馬も良く見えてしまうので…）。皮膚の薄さや柔軟性に富んだしなやかな動き、弾力性も素晴らしく、持ち手をグイグイ引っ張る躍動感あふれる動きに目を奪われました。小柄（当時は 400 kg にも満たない体重でした）なことがかえって躍動感を強く感じさせたように思います。小柄だったこともあるのでしょうか、想定した金額内で落札することができ、当クラブの募集馬として迎え入れることとなりました。

実は、橋口先生にお声がけするまでに他の先生にお声がけしていた経緯がありました。最初の先生には 3 頭、そして次の先生には 2 頭からお選びいただくようお願いしていましたが、アルナシームは選ばれず…。良いモノはありそうながら、小柄という点がやはり引っかかったようです。その後、最初に見ていただいた先生から、新馬勝ちのあとに祝福のお言葉をいただきましたが、内心気まずいと思いました。しかし、それを察してか「私も見せていただいていたね。覚えていますよ。それにしても走りますね(笑)」と返して下さり、救われたことを思い出します。橋口先生にも、預託までの経緯は正直にお伝えしており、「何はともあれ、うちでお預かりできるのは幸運ですね」とご理解いただきました。

牡馬としてはコンパクトな体つきは相変わらずでしたが、育成が進むにつれて、牧場関係者の皆さんのトーンが明らかに高まっていったことをよく覚えています。2 歳の春先には「小倉 2 歳ステークスを勝てると思います」と、ある関係者の方に言っていただきました。結果的に中距離戦で良績を収めましたが、それだけ活気があってみなぎるほどの前進氣勢があったのだと思いますし、デビュー戦で跨ってくださった武豊騎手も「1200m ではなくて 1800m でデビューですか？」と追い切り後に驚かされていたそうです。

その後も、育成や調教が順調に進められ、2 歳の 7 月に函館でデビューを迎えることになりました。橋口調教師からの連絡で、「めちゃくちゃ良かったです。かなり走ると思います」と追い切り後の報告をいただき、前年に新馬戦を圧勝したグラティトゥーを引き合いに出して尋ねると、「アルナシームの方が上だと思います」と力強いご回答が。期待は高まりますが、期待通りに走らないことが多いのも競馬です。当時は競馬場にも思うように行けませんでしたので、現地に臨場をすることはできませんでした。コロナに加え、数日前には熱海市で土石流災害が発生し、当時は日本全体が暗いような雰囲気だったと記憶しています。スタートで立ち遅れると、後方からの競馬に。道中も力みが見られましたが、一方で 1 番人気の馬は好位のインで口スなく立ち回っており、「厳しいかな…」と思った途端に外からグイグイと進出して直線では弾けるように抜け出しました。期待に胸が膨らんだのは言うまでもありません。